

PHP新書「地震予報」読者の皆様へ No.1778長期継続大型地震推定前兆 原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No. 278

2019.09/24 (火曜) 15:00

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake south Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

本続報はE-mail 及び FAX で配信しております「地震前兆検知・観測情報」の本日配信分の中からNo.1778前兆に関係した部分を転載させて頂きました。ご了承下さい。

No.1778長期継続大型地震推定前兆 前兆継続・11/5±発生可能性に修正

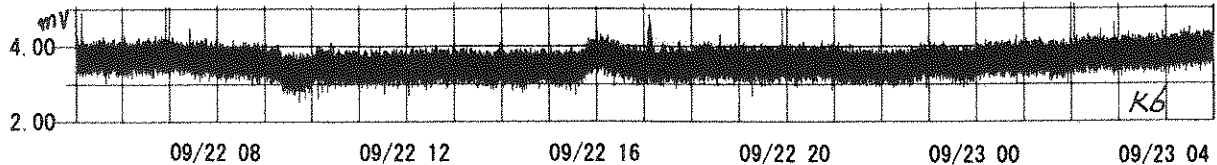
No.1778前兆は10/1±時期に発生の可能性が示唆されてきました。実際9月中旬頃から前兆数も減り静穏化傾向が見ました。しかし右図前兆出現図のとおり複数観測装置に前兆が継続出現し、すでに10/1±時期を示す根拠は失われました。そこで前兆を見直し再考致しました。

最初は別地震の可能性として検討したNo.3107K6BFを主とした前兆はCH29BTを経てCH26噴火前兆で極大。そして再びK6BF出現という関係に見

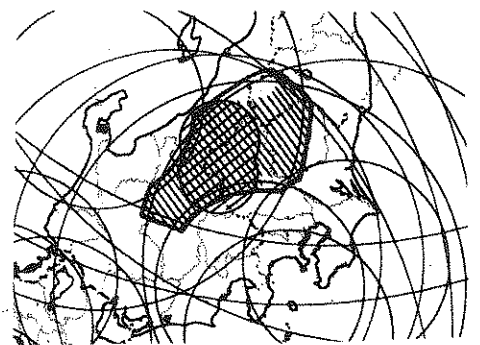
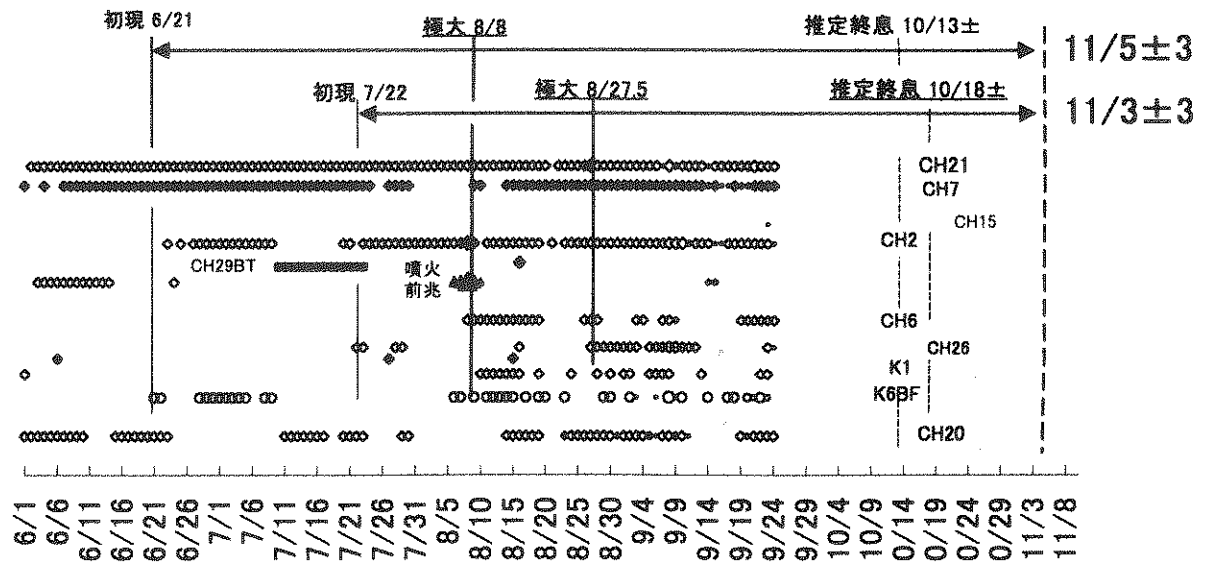
えます。このK6BF初現が本年6月21日です。6月21日初現～8月8日極大の関係を $T_{\text{fap}}:T_{\text{map}}=20:13$ 経験則を使用して計算します、11月5日±発生の可能性が示唆されます。

上K6基線は9月22日朝から23日未明にかけて出現したBF前兆の波形です。基線に対し、上側局・下側局両方の局によるBF前兆が確認できNo.3107前兆の特徴を表しています。さらにCH21特異の極大8/27に対し、この8/27から連続出現しているCH26の初現が7月22日です。この関係も11月初旬時期を示します。現状これらの関係からは10月中発生の可能性は否定され、また11月5日±よりも後の時期を示す関係は認識できず、考え難い状況です。

この2種の前兆関係に対し、一心11月5日±発生の可能性を仮定した推定前兆終息時期を計算し、上図に記してあります。各推定前兆終息時期の点線上に記した観測装置名は、その時期に前兆終息の可能性が考えられる前兆出現観測装置です。今後を観測し、実際の終息変化等を確認し、続報させて頂きます。



No.1778 Stage-25 後半 2019年6月～



- ◆推定領域：上図斜線域（複斜線域＝参考域）
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息後計算予定
但し現状11月5日±2の可能性有
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻・火山近傍地震発生と相前後して浅間山・草津白根山等で噴火が発生する可能性も示唆される
- ◇推定発生時刻：午前9時30分±1時間半
または午後4時±3時間